

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	短詩：文苑
Author(s)	俊佐久
Citation	龍南會雜誌， 9 8： 4 6 - 4 6
Issue date	1903-03-31
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5522
Right	

短 詩

俊 佐 久

初日かけ富士の白雪照りははて光りわたれる大八洲國
梅が香に母しはしき夕月夜み墓に行きてみ名呼びて見む
せめてだに蝶どならむの幸あれな花より花に君を尋ねむ
扇抱きて似たる運命^{さだめ}を戸に泣きぬ人情なうて暮れて行く秋
行く友を泣きて送りて柴折戸に笛吹き居れば梅の花散る
水ありる柳ありやを問ひますなみなわが宿は紅のはな
試みに折らむと言ひし白梅に君が笑まひのねたましげなる
犬連れて大江の原の夕彷徨^{まよひ}菜の花つゞき月は出でにけり

苑

文

漢 詩

春詩三十首

柳 浦

一碧明湖水接天、樓臺縹緲暮春烟、紅襟燕子雙飛裏、柳色依稀似去年。
柳塘三月酒旗風、春水溶々綠蘸紅、燈影如花人影澹、一橋南北畫樓中。
楊柳渡頭繫畫船、長江落日漲晴烟、新潮拍々春如水、芳草幽花蝴蝶天。
濕翠浮江四月天、江南樹色綠妍々、春塘十里輕蹄迹、滿望飛花柳一川。